

W R I 日本 の 宣 言

1. 私はどのような戦争も支持しない。

したがって軍隊のどのような部署にもかかわらず、兵器や戦争用資材を製造したり、取扱う職業につかないことを決意する。また国家の戦争遂行に、直接役立ったり助けることの一切を拒否し、それゆえ戦争や兵役から自由になろうとのぞむ人を助け、その行為の達成に協力する。

2. 私は戦争原因除去のために、出来得る限り行動をする。

戦争は、侵略的、競争的、経済組織や、階級、人種、民族、宗教、イデオロギー、差別、そして特に国家についてのあやまった一般的観念がその原因となっている。私は、たんに戦争を否定するのではなく、戦争原因と闘い、相互扶助の自治管理社会をめざす方向において、戦争を消滅させるため、自分の努力をつくす。

3. 私は、自分の実践行動の基盤に非暴力直接行動をおく。

国家間で行われる戦争は、暴力の最大のものであり、

それは又権力が自己を維持するために最後のより所とする人民抑圧の装置でもある。

もし権力と闘って、かりに人民の側が勝利することができたとしても、それが暴力によるものであるかぎり、かならず新しい権力装置を生みだすことになるだろう。歴史はその方向が決して人類に真の自由と解放をもたらさないことを教えている。とすれば、いまのように困難であろうとも私の取る道は、暴力の悪循環を断つ非暴力直接行動以外にない。

以上の三つの立場にもし私が反するようなことがあった場合、それを自覚すると否にかかわらず、私は W R I メンバーである資格を自動的に失い、自ら除籍されるものであることを承認する。

しかし、その時もお私は W R I 支持者としてとどまり、あやまりを正すことによって再登録し、メンバーにもどる最大の努力をする。

メンバ ー の 任 務

W R I の真の力は、個人が自立して自分の責任におい

て行動する個人の自覚のうちにある。従って個人はW R Iに所属するのではなく、自己をW R Iとして發揮するのであるから、W R Iに対しての責任、義務は自己に対しての責任、義務として、みずから履行すること以外に一切ない。もちろん任務や活動についてどんな強制も課せられない。このことが以下の前提である。

W R Iメンバーとしての私の任務は、第一に \wedge 戦争抵抗運動 \vee \wedge 反戦平和運動 \vee \wedge 反核・反自衛隊・反基地運動 \vee およびそれと関連し提携する各種の反権力運動を支持し、自分のなしうる方法で具体的に協力することである。

それらの運動は、国家権力とその組織一般がもつ権力主義的傾向によって、しばしば分断され、時には対立している。その切断された間隙を埋めるために周辺の運動に積極的に接触し、W R Iがその役割とする組織間の情報交流、共同行動、分業的提携、相互支援の関係をつくりだし、その自由連合の媒体となることである。

第二に、軍務忌避や戦争抵抗者、さらにひろく国家権力との闘争によって逮捕された者の、投獄、監禁、処刑、追放に救援の手をさしおのべ、自由を回復させるために働

くことである。

そのために独自の、またはすでにある救援組織に参加し、具体的個別的救援活動をおしすゝめる。

第三に、非暴力直接行動を実践し発展させ、日常における力として具体化することである。

その第一歩は、いまほとんどその力としての意味を失っている非暴力直接行動を自覚的にとらえなおすことであり、それと併行した研究会、集会、トレーニングセミナー、宣伝行動である。

さらにW R I宣伝誌「直接行動」その他をひろめ、できうれば新しいメンバーと支持者をつくることである。

第四に、W R I日本の特徴は、第一に \wedge 反戦 \vee \wedge 反権力 \vee と \wedge 個人の決意―責任 \vee 。第二に \wedge 運動の連合 \vee \wedge 抵抗者との連帯と救援 \vee 。第三に \wedge 非暴力直接行動 \vee 、そして第四は \wedge インターナショナル \vee である。

W R I日本の小さな活動は、各国W R Iと \wedge 不可視の連合 \vee によって結ばれ、相互に力となりあうことによって、世界的な活動の一翼としての意味をもっている。

その確信はまた私に、各国W R Iの活動やその訴えに関心を向け、自分の可能な方法で応える努力をひろげるだろう。

その具体的な問題提起や行動は、ニュースレターその他で連絡されることになる。

登録について

∧ W R I 宣言 V と ∧ メンバー の 任務 V を 受 入 れ、み ず け ら を W R I で あ る と し た と き、あ な た は W R I の メ ン ー ー だ す。

だから登録は、あくまで自己確認の事務的手続きとしての意味しかもちません。たと自分の決意だけでは他の W R I メンバーとの交流や共同関係がとくられにくいこと、および W R I インターナショナルとは日本セクションを通じて関係が求められているなどの理由から登録をする—ということになります。

もちろんそれゆえ、登録によってあなたは W R I 日本に、みずからが課すもの以外何の義務をも負うことはないことが原則です。

1. W R I メンバーは、別紙形式の登録用紙に署名して事務所あてにお送り下さい。

なお、ベルギーの国際事務所へ送る年額千円をふくめた年会費三千元(以上)を添付して下さい。ただし、現

在失業中の無収入者、低収入者は、免除または自分が判断した任意の額でかまいません。

2. 職業その他の事情で、メンバーとなりえない方は支持者になって下さい。その意志を表明された方、および年額千円以上のカンパをされた方を支持者とします。メンバーと支持者の区分は、個人の決意と行為に属することであり、取扱いは同じです。ただし、その名簿は公開しません。

3. 事務所は、W R I 日本 の 総 会 が 開 催 さ れ、メ ン ー ー の 総 意 で 運 営 方 針 が 決 定 さ れ る ま で W R I 大 阪 と 自 発 的 に 申 出 た メ ン ー ー の 責 任 で 維 持 運 営 し ま す。ま た W R I 国 際 事 務 所 の 分 担 金、ニ ュ ー ス レ タ ー 宣 伝 紙 の 発 行 費、通 信 連 絡 な どの 事 務 所 費 用 は、会 費 と カ ン パ、紙 誌 売 上 げ に よ っ て ま か な い ま す。

ウリの歴史

W R I は ウ リ と 読 み、戦 争 抵 抗 者 イ ン タ ー ナ シ ョ ナ ル の 略 称 で あ る。第 一 次 大 戦 が 終 っ た 直 後、戦 時 中 反 戦 運 動 の た め に 弾 圧 迫 害 を う け た ヨ ー ロ ッ パ 各 国 の 人 々 が、

オランダに集った。その結果、イギリス、フランス、ドイツ、オランダの団体が中心となり、首唱者ランナム・ブラウンを代表とする「バーツォV（エスベラント語＝平和の意味）」という国際組織が生まれた。ブラウンは当時四二才、二十才の時イギリスの南ア戦争に反対して闘い、第一次大戦中も獄中で秘密の回覧新聞をつくって、最後まで反戦の闘いをやめなかった歴史の闘士であった。

一九二三年三月改組されて名称をWRIと改め、事務局はイギリスに移った。二五年、イギリス・ホッデストンではじめて国際会議がひらかれ、世界各地から九十名の代表が出席、評議員会が選出された。それ以来、三年毎に国際会議が継続して開かれ、昨年（一九七五年）はアムステルダムでその第十五回が開かれている。国際事務所は、昨年ロンドンから移り、現在ベルギー・ブラッセルにある。

日本におけるWRIは、戦時中、会員イシガオサムさんの兵役拒否が知られているが、一九五三年アナキスト連盟国際部責任者であった故山鹿泰治によって、はじめWRI日本がつくられ、原水禁運動を中心に活動をはじめた。インドで開かれた第十回国際会議（六十年）には代表を初めて送っている。山鹿死後、遠藤、向井と

書記がひきつがれ、機関紙「戦争抵抗者」を十五号まで出したが中絶。ベトナム反戦、七十年安保闘争をへて、七四年、核反対ヨット・フリー号の来日などにより、再組織と活動がはじまった。機関紙「非暴力直接行動V」が十号まで発行され、「ウリ・ニュースレター」（月刊）と改称されて現在に至っている。

確認の登録（様式）

住所

氏名

職業

私は、WRI宣言Vおよびメンバーの任務Vを自己のものとして、承認し、確認するため、ここに署名して登録します。

一九七六年 月 日

WRI・日本・事務所御中

（簡単な自己紹介をします）